

令和5年度（2023年度）

主要農作物奨励品種特性表

熊 本 県

目 次

1 特性表の利用にあたって	
(1) 利用上の注意	・ ・ ・ ・ ・ P1
(2) 種子の更新	・ ・ ・ ・ ・ P1
(3) 稲作地域区分	・ ・ ・ ・ ・ P1～2
2 水稻奨励品種特性表	
(1) 水稻うるち奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P3～4
(2) 水稻米粉等奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P3～4
(3) 水稻もち奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P3～4
(4) 水稻うるち奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P5～6
(5) 水稻米粉等奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P5～6
(6) 水稻もち奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P5～6
3 麦類奨励品種特性表	
(1) 小麦奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P7～8
(2) 大麦奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P7～8
(3) 裸麦奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P7～8
(4) 麦類奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P9～10
4 大豆奨励品種特性表	
(1) 秋大豆奨励品種等	・ ・ ・ ・ ・ P11～12
(2) 秋大豆奨励品種特性表	・ ・ ・ ・ ・ P13～14
5 参考資料	
(1) 水稻奨励品種別作付面積の推移	・ ・ ・ ・ ・ P15
(2) 麦類奨励品種別作付面積の推移	・ ・ ・ ・ ・ P16
(3) 大豆奨励品種別作付面積の推移	・ ・ ・ ・ ・ P17
(4) 水稻奨励品種の改廃	・ ・ ・ ・ ・ P18～19
(5) 麦類奨励品種の改廃	・ ・ ・ ・ ・ P20
(6) 大豆奨励品種の改廃	・ ・ ・ ・ ・ P21
(7) 熊本県主要農作物奨励品種調査基準及び奨励品種決定基準	・ ・ ・ ・ ・ P22～24

1 特性表の利用にあたって

(1) 利用上の注意

a 編集の概要

本表は、熊本県の主要農作物（稲、麦、大豆）奨励品種及び認定品種について、県の奨励品種決定調査で得られた成績等によって明らかにされた品種の諸特性を集約したものです。

b 評価の方法

本表に示された「難易」「多少」「強弱」等の評価は、県で定めた指定品種、比較品種等との相対的な比較によって得られたものです。

c 表示項目の取扱い

本表に示された品種特性は、あくまでも試験研究機関で得られた成績に基づくもので、一般農家の平均値ではないことに留意して利用して下さい。

本表中の出穂期、成熟期は、試験研究機関における標準的な栽培条件によるものですので、おおよその目安とし、農家個々のほ場の収穫については、籾の黄化率や積算気温等を考慮して、適期刈取に努めて下さい。

いもち病等の耐病性については、菌の系統によって異なる場合があること等に留意して、適期防除に努めてください。

(2) 種子の更新

a 種子更新の必要性

毎年自家採種を続けていると品種の特性が退化してしまうので、種子を更新する必要があります。（品種特性の退化）

- ・ 品質が劣化し、商品性が低下します。
- ・ 収量が低下します。
- ・ 病害虫の抵抗性が低下します。

（品種特性が退化する原因）

突然変異、自然交雑、異品種の混入、病害虫の発生等により品種特性が退化します。

b 種子更新の効果

- ① 品種、耐病性、その他の特性の退化を防ぎ、商品性を向上させます。
- ② 自家採種を3～4年続けた場合の収量の漸減を防ぎます。

c 優良種子の生産

県は奨励品種の優良な種子の生産を行うため、採種ほを指定し、優良種子の生産指導及びほ場、生産物の審査を実施しています。

指定採種ほで生産された種子は、以下にある厳重な栽培管理のもとで生産された純度の高い優良な種子です。

- ① 原種による種子生産と入念な異品種の抜き取り
- ② 病害虫防除の徹底と罹病株除去
- ③ 種子専用機械による収穫・乾燥・調製
- ④ 発芽試験や種子検査による品質の保証

(3) 稲作地域区分

高冷地から海岸島しょまで多岐にわたる立地条件を生かすとともに、品種の集約やロットの拡大のため、高冷地、山麓準平坦、平坦の3地域に区分し、良食味品種の配置を行います。また、気象災害回避や機械・施設の有効利用、規模拡大に伴う作期幅の拡大等地域の実情を踏まえ、特定品種への偏りを是正するため、地域毎に2～3の販売力のある品種へ作付けを誘導し、品種構成の適正化を図ることにしています。

- ① 高冷地：阿蘇、上益城のおおむね標高300m以上の地域
- ② 山麓準平坦：宇城、玉名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、八代、球磨のおおむね標高100～300mの地域
- ③ 平坦：熊本、玉名、上益城、宇城、八代、芦北、天草のおおむね標高100m未満の地域

水稻奨励品種の作付地域一覧

品種		地域区分		
		高冷地域	山麓準平坦地域	平坦地域
うるち	コシヒカリ	◎	○	◎早期
	キヌヒカリ			◎早期
	あきげしき	◎	○山間部	
	ヒノヒカリ		◎	
	森のくまさん		○	◎
	くまさんの力		○	◎
	くまさんの輝き		◎	◎
	やまだわら		○	◎
	山 田 錦	○	○	
	華 錦	○	○	○
	あきまさり		○	◎
米粉等	ミズホチカラ		○	◎
もち	峰の雪もち			○早期
	ヒヨクモチ			◎

◎：基幹品種 ○：補完品種 山間部：山間部のみ 早期：早期栽培

2 水稻奨励品種特性表

(1) 水稻うるち奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年
極早	コシヒカリ	奨励	越南17号	農林22号/農林1号	S56
極早	キヌヒカリ	奨励	北陸122号	(収2800/北陸100号) F1/北陸96号	H3
早晩	あきげしき	奨励	南海131号	西海199号/ヒノヒカリ	H9
中中	ヒノヒカリ	奨励	南海102号	黄金晴/コシヒカリ	H1
中中	森のくまさん	奨励	熊本2号	ヒノヒカリ/コシヒカリ	H9
中中	くまさんの力	奨励	熊本A49号	ヒノヒカリ/北陸174号	H20
中中	くまさんの輝き	奨励	熊育GR07	南海137号/中部98号	H29
中晩	やまだわら	認定	関東239号	泉348/関東192号	H30
中晩	山田錦	認定	山渡50~7	山田穂/短稈渡船	H1
中晩	華錦	認定	熊育GR06	夢いずみ/山田錦	H27
晩晩	あきまさり	奨励	西海248号	かりの舞/あきさやか	H17

(2) 水稻米粉等奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年
晩晩	ミズホチカラ	認定	西海203号	奥羽326号/86SH283長	H22

(3) 水稻もち奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早早	峰の雪もち	認定	北陸糯141号	奥羽302号/ヒメノモチ	H8
晩晩	ヒヨクモチ	奨励	西海糯118号	ホウヨク/祝糯	S59

特性及び栽培上の注意点

品質、食味は極良。やや長稈で耐倒伏性は弱。いもち病にやや弱い。

品質、食味ともにコシヒカリと同程度。コシヒカリより穂発芽しやすく穂発芽性はやや易、耐倒伏性は強。

食味はコシヒカリと同程度の極良。耐倒伏性はやや強。いもち病にやや弱いので、多肥栽培は避け、適正な防除に努める。

食味は極良。耐倒伏性はやや弱なので多肥栽培は避け、いもち病、白葉枯病にやや弱いので適正な防除に努める。品質、食味の維持を図るため、適期刈り取りを行う。

食味はヒノヒカリと同程度の極良。耐倒伏性はやや弱なので多肥栽培は避け、いもち病にやや弱いので適期防除に努める。品質、食味の維持を図るため、適期刈り取りを行う。

高温登熟性が良く、品質はヒノヒカリより心白、乳白、背白、基白等の発生が少なく良好、食味はヒノヒカリと同等の極良。いもち病にやや弱いので適正な防除に努め、白葉枯病に弱いので常発地での栽培は避ける。

高温登熟性が良く、品質はヒノヒカリより優れ、食味はヒノヒカリと同等以上の極良で特に粘りが強い。穂数型。耐倒伏性はやや強。いもち病、白葉枯病にはやや弱いので、適正な防除に努める。良食味生産を図るため、極端な多肥は避ける。

食味はコシヒカリより劣る。穂重型。多収で耐倒伏性は強。炊飯米の粘りが強すぎないため、外食・中食産業や冷凍米飯等の業務用に向く。ベンゾビシクロンやテフリルトリオン等の剤に感受性を示すため、該当剤を含まない除草剤を使用する。白葉枯病に弱いので常発地での栽培は避ける。

醸造適性は極良。大粒。偏穂重型、極長稈で耐倒伏性は弱、穂発芽性は易。いもち病に弱く、白葉枯病にやや弱、縞葉枯病にも弱い。

醸造適性は良好。偏穂数型。耐倒伏性は中程度で山田錦より明らかに強い、穂発芽性はやや易で山田錦よりやや穂発芽しにくい。いもち病に弱いため、適正な防除に努める。

晩生で、食味はユメヒカリより良く、ヒノヒカリと同等。耐倒伏性は強。葉いもち病、白葉枯病にやや弱い。登熟期間がやや長く、熟ムラが出やすいので成熟期判定に注意を有する。

特性及び栽培上の注意点

米粉用米として適する。短稈、穂重型、多収で耐倒伏性は極強。ベンゾビシクロンやテフリルトリオン等の剤に感受性を示すため、該当剤を含まない除草剤を使用する。白葉枯病に弱い。登熟期間を確保するためにやや早植えとする。

特性及び栽培上の注意点

品質、食味は良好。短稈で耐倒伏性は強。穂いもちにやや弱い。ふ先色が黄白であり、うるち種との区別がしにくいことに留意する。早期、肥沃地域に適する。

品質、食味は良好。多収。耐倒伏性は極強。ふ先色は登熟初期には不鮮明であるが、後期は判別可能。

(4) 水稻うるち奨励品種特性表

栽培型	試験地	品種名	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	及芒の 長多 短少	ふ先色
早期	天草	コシヒカリ	S54~H14	3/25	4/19	7/9	8/10	88	18.4	436	無	白
		キヌヒカリ	S63~H14	3/25	4/19	7/10	8/12	76	17.5	424	無	黄白
普通期	高原	コシヒカリ	H30~R4	4/28	5/18	8/1	9/12	89	18.2	425	無	白
		あきげしき	H30~R4	4/28	5/18	8/11	9/26	82	19.4	374	無	黄白
	矢	山田錦	H24~H28	4/20	5/21	8/15	10/9	115	21.4	358	無	黄白
		華錦	H24~H28	4/20	5/21	8/16	10/9	87	17.6	400	やや少・中	黄白
	農産園芸研究所	ヒノヒカリ	H30~R4	5/21	6/21	8/22	10/6	89	20.0	376	無	黄白
		森のくまさん	H30~R4	5/21	6/21	8/22	10/7	88	20.1	383	稀短	黄白
		くまさんの力	H30~R4	5/21	6/21	8/23	10/9	84	22.0	341	少やや短	黄白
		くまさんの輝き	H30~R4	5/21	6/21	8/25	10/8	83	19.7	418	稀・極短	黄白
		やまだわら	H30~R4	5/21	6/21	8/22	10/18	82	21.1	303	稀・極短	黄白
		あきまさり	H30~R4	5/21	6/21	8/30	10/19	87	21.3	323	稀短	黄白

注1) 試験地 天草：天草農業研究所（天草市）、高原：高原農業研究所（阿蘇市）、矢：高原農業研究所（矢部ほ場）（山都町）、農産園芸研究所（合志市）

注2) 各調査数値は、供試した5カ年のうち、最高及び最低を除いた3カ年の平均値（ただし、天草で供試された品種は、全供試年の平均値）

注3) 玄米外観品質および食味については、栽培型が同じである基準品種との比較による記載とする

(5) 水稻米粉等奨励品種特性表

栽培型	試験地	品種名	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	及芒の 長多 短少	ふ先色
普通期	農	ミズホチカラ	H30~R4	5/21	6/21	8/28	10/26	78	21.5	250	無	黄白

注1) 試験地 農：農産園芸研究所（合志市）

注2) 各調査数値は、供試した5カ年のうち、最高及び最低を除いた3カ年の平均値

(6) 水稻もち奨励品種特性表

栽培型	試験地	品種名	供試年次	播種期	移植期	出穂期	成熟期	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	及芒の 長多 短少	ふ先色
早期	天	峰の雪もち	H5~H10	3/25	4/21	7/5	8/6	65	18.5	395	極稀・短	黄白
普通期	農	ヒヨクモチ	H23~H25	5/20	6/20	9/2	10/28	74	19.1	407	稀短	淡褐

注1) 試験地 天：天草農業研究所（天草市）、農：農産園芸研究所（合志市）

着粒密度	草型	脱粒性	耐倒伏性	穂発芽性	千粒重 g	玄米重 kg/10a	玄米 品質 外観	食 味	耐病性		
									葉いもち	穂いもち	白葉枯
中	偏穂数	難	弱	難	20.9	456	基準	基準	中	弱	中
やや密	中間	難	強	やや易	21.2	483	コシヒカリと同等	コシヒカリと同等	中	中	中
中	偏穂数	難	弱	難	21.5	652	基準	基準	中	弱	中
やや密	中間	難	やや強	難	22.2	680	コシヒカリと同等	コシヒカリと同等	やや弱	やや弱	中
中	偏穂重	易	弱	易	27.3	524	—	—	弱	弱	やや弱
中	偏穂数	やや易	中	中	26.3	562	—	—	弱	やや弱	—
やや密	偏穂重	難	やや弱	難	21.9	564	基準	基準	やや弱	やや弱	やや弱
中	偏穂重	難	やや弱	難	21.9	556	ヒノヒカリと同等	ヒノヒカリと同等～やや良	やや弱	やや弱	中
中	偏穂重	難	中	やや難	23.2	556	ヒノヒカリより優れる	ヒノヒカリと同等	やや弱	やや弱	弱
やや疎	穂数型	難	やや強	中	22.7	566	ヒノヒカリより優れる	ヒノヒカリより優れる	やや弱	やや弱	やや弱
やや密	穂重型	難	強	やや易	23.3	682	ヒノヒカリより劣る	ヒノヒカリより劣る	やや弱	—	弱
やや密	偏穂重	中	強	中	22.5	605	ユメヒカリと同等	ヒノヒカリと同等	やや弱	中	やや弱

着粒密度	草型	脱粒性	耐倒伏性	穂発芽性	千粒重 g	玄米重 kg/10a	玄米 品質 外観	食 味	耐病性		
									葉いもち	穂いもち	白葉枯
密	穂重	難	極強	やや易	23.7	740	—	—	不明	不明	弱

着粒密度	草型	脱粒性	耐倒伏性	穂発芽性	千粒重 g	玄米重 kg/10a	玄米 品質 外観	食 味	耐病性		
									葉いもち	穂いもち	白葉枯
やや密	偏穂重	難	強	難	22.7	—	—	—	中	やや弱	中
中	穂数	やや難	極強	難	22.7	666	—	—	やや強	やや強	強

3 麦類奨励品種特性表

(1) 小麦奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早	シロガネコムギ	奨励	西海120号	シラサギコムギ/西海104号	S62
早	チクゴイズミ	奨励	西海171号	関東107号/アサカゼコムギ	H6
早	ミナミノカオリ	認定	西海186号	pampa INTA/西海167号	H16

(2) 大麦奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早	はるしずく	奨励	九州二条17号	ミハルゴールド/栃系225	H16
早	くすもち二条	認定	西海皮73号	サチホゴールド/羽系B0571	R5

(3) 裸麦奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
早	イチバンボン	認定	四国裸90号	四国裸58号(センボンハダカ)/四R系697	H6

特性及び栽培上の注意点

めん用に適する。品質は良、短稈、穂発芽性は易、収量性は農林61号と同程度で早生種としては極めて安定。

製麺適正では食感が特に優れる。品質はシロガネコムギより優れ、中短稈、穂発芽性は難、収量性はシロガネコムギより多収。

硬質小麦。タンパク質含有率高く、パン加工適性が高い。品質はシロガネコムギより劣り、穂発芽性はやや易、収量性はシロガネコムギよりも低い。高タンパク質特性をより発揮させるため、追肥に重点を置いた施肥を行う。赤かび病に対する抵抗性は十分ではない。

特性及び栽培上の注意点

精麦、焼酎醸造適性は高い。良質、多収。オオムギ縮萎病ウイルスⅠ型系統Ⅲ型系統に抵抗性を持つ。

もち性大麦で炊飯時の柔らかさと粘りに優れ、水溶性食物繊維β-グルカンを多く含む。精麦は黄色みが強い。オオムギ縮萎病ウイルスⅠ型系統Ⅲ型系統に抵抗性を持つ。赤かび病に対する抵抗性は十分ではない。

特性及び栽培上の注意点

良質、多収。赤かび、うどんこ病への抵抗性は十分ではない。

(4) 麦類奨励品種特性表

麦種	品種名	年産	秋播性 程度	播 種 期	出 穂 期	成 熟 期	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m ²	芒 の 長 短	株 の 開 閉	穂 発 芽 性
小麦	シロガネコムギ	R1～R5	Ⅱ	11/20	3/26	5/13	80	8.6	455	長	開	易
	チクゴイズミ	R1～R5	Ⅰ～Ⅱ	11/20	3/26	5/17	91	8.9	433	長	開	難
	ミナミノカオリ	R1～R5	Ⅰ	11/20	3/28	5/21	90	8.6	400	やや長	開	難
大麦	はるしずく	R1～R5	Ⅰ	11/20	3/23	5/7	97	6.9	518	中	-	難
	くすもち二条	R1～R5	Ⅰ	11/20	3/24	5/9	77	7.2	501	-	-	中
裸麦	イチバンボシ	H30～R4	Ⅴ	11/20	3/20	5/9	95	5.2	433	中	やや閉	難

注1) 試験地 農産園芸研究所(合志市)

注2) 播種期～成熟期及び各調査数値は、供試した5カ年のうち、最高及び最低を除いた3カ年の平均値(ただし、供試年数が5カ年に満たない品種は全供試年の平均値)

注3) 玄麦蛋白質含有率は分光光度計計測、15%水分換算

脱粒性	子実		収量 kg/10a	粒質	粒色	外観品質	玄麦含有率 蛋白質% %	精麦白度	耐倒伏性	耐病性		
	容積重 g	千粒重 g								赤かび	うどんこ	縞萎縮
易	833	36.3	445	-	-	-	10.1	-	強	中	中	強
-	827	40.7	523	-	-	-	9.0	-	強	中	やや弱	強
-	824	40.4	459	硝子質	-	-	12.9	-	強	やや弱	やや強	強
-	721	47.5	471	-	-	-	-	-	やや強	やや強	極強	極強
-	687	46.0	448	-	黄	-	-	やや低	強	中	極強	極強
難	831	32.2	512	軟質	黄褐	-	-	-	やや強	やや弱	やや弱	強

4 大豆奨励品種特性表

(1) 秋大豆奨励品種等

早中晩 の別	品種名	奨励 認定 の別	旧系統名	両 親 (母/父)	採用 年次
中	すずおとめ	認定	九州129号	納豆小粒/九系50	H17
晩	フクユタカ	奨励	九州86号	岡大豆/白大豆3号	S56

特性及び栽培上の注意点

納豆用小粒大豆。粒揃いが良く、良質。紫斑粒は少ない。最下着莢位置が低いため収穫時の汚損に注意する。

子実是中～中の大粒。やや短茎、良質、多収。臍色は淡褐、種皮の裂皮はやや少ない。

(2) 秋大豆奨励品種特性表

品種名	供試年次	播 種 期	開 花 期	成 熟 期	生 態 型	主 茎 長 cm	主 茎 節 数 節	分 枝 数 本	伸 育 性	花 色	毛 茸 の 色	莢 色	種 皮 の 色
すずおとめ	R3～R4	7/9	8/17	10/20	IVc	61	12.5	5.8	有限	紫	褐	褐	黄白
フクユタカ	H29～R4	7/11	8/21	11/4	IVc	61	15.1	8.0	有限	紫	白	淡褐	黄白

注1) 試験地 農産園芸研究所(合志市)

注2) 播種期～成熟期及び各調査数値は、R2を除き供試した直近5カ年のうち、最高及び最低を除いた3カ年の平均値(ただし、供試年数が5カ年に満たない品種は全供試年の平均値)

種皮の亀裂	粒の光沢	粒の形	臍の色	百粒重 g	収量 kg/10a	耐倒伏性	耐病性			
							紫斑病	ウイルス病	葉焼病	褐斑病
微	弱	球	黄	11.6	262	強	強	強	中	強
少～中	弱	球	淡褐	32.7	396	強	中	中	弱	強～極強

5 参考資料

(1) 水稲奨励品種別作付面積の推移

品種名	産年													
	20年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産	3年産	4年産	
米 等	コシヒカリ	5,576 14%	4,499 12%	4,508 12%	4,412 12%	4,094 11%	3,788 11%	3,554 11%	3,455 10%	3,415 10%	3,378 10%	3,413 10%	3,310 10%	3,372 11%
	キヌヒカリ	883 2%	958 3%	984 3%	1,048 3%	1034 3%	957 3%	867 3%	859 3%	916 3%	953 3%	927 3%	933 3%	940.22 3%
	あきげしき	1,316 3%	1,415 4%	1,389 4%	1,286 3%	1,376 4%	1,273 4%	1,169 4%	1,124 3%	1,080 3%	1,091 3%	1,068 3%	1,027 3%	945 3%
	ヒノヒカリ	19,378 49%	19,314 51%	19,267 51%	20,246 53%	19,496 52%	17,735 50%	16,685 49%	16,536 50%	17,004 51%	17,130 51%	17,144 52%	16,360 51%	14,413 46%
	森のくまさん	5,748 14%	4,207 11%	4,275 11%	4,134 11%	3,900 10%	4,434 12%	4,708 14%	4,643 14%	4,722 14%	4,630 14%	4,448 13%	4,074 13%	4,124 13%
	くまさんの力		1,323 3%	1,217 3%	1,199 3%	1,200 3%	1,077 3%	923 3%	986 3%	972 3%	973 3%	878 3%	880 3%	778 3%
	くまさんの輝き								40 0%	114 0%	227 1%	436 1%	613 2%	1,355 4%
	やまだわら									260 1%	238 1%	407 1%	302 1%	197 1%
	山田錦		12 0%	18 0%	17 0%	19 0%	63 0%	57 0%	64 0%	62 0%	46 0%	46 0%	39 0%	35 0%
	華錦						8.5 0%	15 0%	30 0%	42 0%	33 0%	33 0%	28 0%	27 0%
	あきまさり	1,978 5%	1,521 4%	1,589 4%	1,469 4%	1,710 5%	1,398 4%	1,101 3%	1,017 3%	739 2%	708 2%	650 2%	618 2%	542 2%
もち	ミズホチカラ		91 0%	86 0%	86 0%	222 1%	192 1%	213 1%	213 1%	186 1%	243 1%	306 1%	277 1%	362 1%
	峰の雪もち	97 0%	87 0%	61 0%	48 0%	90 0%	134 0%	77 0%	61 0%	153 1%	121 0%	121 0%	135 0%	123 0%
	ヒヨクモチ	2,933 7%	2,953 8%	2,835 7%	2,317 6%	2,134 6%	2,591 7%	2,517 8%	2,339 7%	2,141 6%	1,902 6%	1,845 6%	1,983 6%	2,032 7%
水稲作付面積	39,700	37,900	38,100	38,400	37,500	35,600	33,800	33,300	33,300	33,300	33,300	32,300	31,300	

注) 水稲作付面積は農林水産統計値。品種別作付面積は農産園芸課調べ

(2) 麦類奨励品種別作付面積の推移

産年 品種名		産年												
		20年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産	3年産	4年産
小麦	シロガネコムギ	2,860 59%	2,608 53%	2,560 52%	2,420 52%	2,000 41%	1,960 40%	1,976 39%	2,050 42%	2,567 52%	2,168 44%	2,329 46%	2,327 45%	1,922 37%
	チクゴイヅミ	1,300 27%	1,336 27%	1,360 28%	1,335 29%	1,200 25%	1,225 25%	1,097 22%	1,366 28%	1,051 21%	1,807 37%	1,789 36%	1,762 34%	1,746 34%
	ミナミノカオリ	400 8%	703 14%	700 14%	660 14%	1,300 27%	1,470 30%	1,773 35%	1,269 26%	1,352 27%	925 19%	892 18%	1,017 20%	1,494 29%
小麦作付面積		4,820	4,890	4,890	4,640	4,820	4,900	5,080	4,880	4,970	4,900	5,010	5,150	5,210
大麦	はるしずく	920 52%	840 49%	750 46%	750 50%	1,500 93%	1,540 89%	1,584 89%	1,548 90%	1,593 91%	1,625 89%	1,775 89%	1,649 74%	1,737 67%
	大麦作付面積		1,770	1,730	1,620	1,490	1,610	1,730	1,780	1,720	1,750	1,830	2,000	2,230
裸麦	イチバンボシ	20 65%	20 37%	20 37%	20 37%	20 34%	14 20%	14 16%	14 16%	26 17%	51 32%	21 14%	43 33%	45 44%
	裸麦作付面積		31	54	54	54	59	73	86	134	157	161	146	131

注) 麦種毎の作付面積は農林水産統計値。品種別作付面積は農産園芸課調べ

(3) 大豆奨励品種別作付面積の推移

産年 品種名		産年												
		20年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産	3年産	4年産
秋大豆	フクユタカ	2,944 98%	2,415 98%	2,091 97%	1,965 97%	1989 97%	2069 99%	2597 97%	2365 97%	2371 98%	2396 98%	2372 98%	2461 98%	2624 99%
	すずおとめ	46 2%	29 1%	29 1%	22 1%	24 1%	13 1%	62 2%	30 1%	32 1%	38 2%	37 2%	17 1%	17 1%
大豆作付面積		2,990	2,470	2,150	2,030	2,050	2,090	2,680	2,440	2,430	2,450	2,420	2,500	2,660

注) 大豆作付面積は農林水産統計値。品種別作付面積は農産園芸課調べ

(4) 水稻奨励品種の改廃

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
1号雄町	大正5年	昭和10年		
1号神力	大正11年	昭和5年		
九州8号	大正11年	昭和13年		
福神	大正12年	昭和9年		
旭号	大正12年	昭和4年		
神力もち	大正13年	昭和24年		
1号山北坊主	大正13年	昭和7年		
旭1号	昭和4年	昭和37年		
宝	昭和6年	昭和36年	昭和36年	昭和37年
神光	昭和7年	昭和13年		
早生旭	昭和9年	昭和14年		
農林12号	昭和13年	昭和43年		
瑞豊	昭和13年	昭和35年		
農林8号	昭和14年	昭和24年		
農林18号	昭和16年	昭和44年		
農林29号	昭和19年	昭和43年		
農林33号	昭和19年	昭和36年		
農林37号	昭和21年	昭和29年		
農林39号	昭和23年	昭和36年		
農林36号	昭和24年	昭和29年		
肥後もち4号	昭和24年	昭和36年		
農林22号	昭和28年	昭和37年	昭和37年	昭和44年
旭もち	昭和28年	昭和35年		
ベニセンゴク	昭和29年	昭和40年		
ナカセンゴク	昭和29年	昭和36年	昭和36年	昭和37年
トワダ	昭和33年	昭和37年		
タカネニシキ	昭和33年	昭和37年		
アキバエ			昭和33年	昭和36年
信濃モチ3号			昭和33年	昭和43年
平和もち			昭和33年	昭和36年
ヤマトミ	昭和35年	昭和45年		
祝もち	昭和35年	昭和45年		
アリアケ	昭和36年	昭和50年		
ホウヨク	昭和36年	昭和45年		
越路早生			昭和37年	昭和41年
西南8号			昭和37年	昭和38年
フジミノリ			昭和38年	昭和45年
シラヌイ	昭和40年	昭和45年		
黄金錦			昭和40年	昭和54年
ハマミノリ	昭和41年	昭和46年		
ミホニシキ			昭和41年	昭和46年
ヤエホ			昭和42年	昭和47年
サイゴクモチ	昭和43年	昭和50年		
日本晴	昭和45年	平成9年	昭和43年	昭和45年
レイホウ	昭和45年	平成12年	昭和44年 平成12年	昭和45年 平成17年
カグラモチ			昭和44年	昭和53年
トヨタマ	昭和45年	昭和56年		
テンリョウ	昭和45年	平成9年		
ナツコガネ			昭和45年	昭和53年
アカネモチ	昭和46年	平成5年		
トドロキワセ			昭和47年	昭和57年
ツクシバレ			昭和48年	昭和53年
あそみのり			昭和48年	昭和57年

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
ミナミニシキ	昭和50年	平成9年		
ニホンマサリ			昭和51年	昭和62年
ミズホ			昭和51年	昭和56年
コガネマサリ	昭和53年	平成元年		
宮崎もち			昭和53年	平成元年
クレナイモチ	昭和50年	平成9年		
ニシホマレ	昭和54年	平成元年		
コシヒカリ	昭和59年		昭和56年	昭和59年
シンレイ			昭和56年	平成5年
黄金晴			昭和57年	平成5年
ニシヒカリ			昭和59年	平成元年
ミネアサヒ			昭和59年	平成12年
ヒヨクモチ	平成9年		昭和59年	平成9年
旭1号	昭和62年	平成9年		
ヒゴノハナ	平成元年	平成9年		
ヒノヒカリ	平成元年			
山田錦	平成元年	平成9年	平成9年	
ユメヒカリ	平成2年	平成17年		
ホシユタカ	平成2年	平成9年		
キヌヒカリ	平成3年			
ゆめみのり			平成3年	平成10年
ヒノクニオトメ	平成5年	平成9年		
つぶより	平成5年	平成9年		
よかほなみ	平成5年	平成9年		
なつのたより			平成5年	平成12年
峰の雪もち			平成8年	
あきげしき	平成9年			
森のくまさん	平成9年			
夢いずみ	平成9年	平成15年		
バンバンザイ			平成10年	平成20年
いただき	平成12年	平成20年	平成20年	平成31年
秋音色			平成15年	平成22年
あきまさり	平成17年			
くまさんの力	平成20年			
ミズホチカラ			平成22年	
北陸193号			平成22年	平成31年
わさもん			平成23年	平成31年
華錦			平成27年	
くまさんの輝き	平成29年			
やまだわら			平成30年	

(5) 麦類奨励品種の改廃

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
九州裸3号			昭和22年	平成6年
農林61号	昭和24年	平成9年		
シラヌイハダカ	昭和30年	平成2年		
エビスコムギ	昭和33年	昭和48年		
ハシリハダカ	昭和35年	昭和48年		
ニチリンコムギ	昭和39年	昭和48年		
成城17号			昭和41年	昭和53年
オマセコムギ	昭和45年	昭和54年		
カワサイゴク	昭和49年	昭和55年		
ゴガツコムギ	昭和50年	昭和55年		
あかぎ二条	昭和52年	昭和59年		
シロワセコムギ	昭和53年	平成元年		
ダイセンゴールド	昭和53年	平成9年		
アサカゼコムギ	昭和54年	昭和62年		
あまぎ二条	昭和55年	平成9年		
シロガネコムギ	昭和62年			
ニシノゴールド	昭和62年	平成11年		
ニシノチカラ	昭和63年	平成20年		
チクゴイズミ	平成6年			
アサカゴールド	平成6年	平成11年		
イチバンボシ			平成6年	
ニシノホシ	平成11年	令和5年		
ミサトゴールドデン			平成11年	平成20年
ニシノカオリ			平成15年	平成31年
ミナミノカオリ			平成16年	
はるしずく	平成20年		平成16年	平成20年
くすもち二条			令和5年	

(6) 大豆奨励品種の改廃

品種名	奨励		認定	
	採用年	廃止年	採用年	廃止年
ホウギョク		昭和49年		
アソマサリ		昭和49年		
アソムスメ		昭和49年		
アソアオガリ		昭和49年		
白莢1号	昭和24年	平成元年		
コガネダイズ	昭和24年	平成元年		
ヒゴムスメ	昭和40年	平成9年		
アキヨシ	昭和49年	平成元年		
ヒュウガ	昭和49年	平成元年		
アキシロメ	昭和56年	平成9年		
フクユタカ	昭和56年			
すずおとめ			平成17年	
すずかれん			平成23年	平成31年

別記 1

熊本県主要農作物奨励品種決定調査基準及び奨励品種決定基準

1 奨励品種決定調査基準

(1) 奨励品種決定調査の方法

ア 奨励品種決定調査（以下「調査」という。）の対象となる品種は、農業関係試験研究課題化要望調査等による生産・実需からの要望及び県施策等を踏まえ、次のすべての要件を満たすものの中から熊本県農業研究センターが決定する。

(ア) 調査に支障のない程度に品種の固定が進んでいること。

(イ) 調査に必要な種子が十分に供給されていること。

(ウ) 病虫害抵抗性、食味、その他の主要な特性について、検定により明らかにされていること。

(エ) 他県の既存の奨励品種（以下「対象品種」という。）との比較栽培試験等により、対象品種より改善された点が認められること。

(オ) 調査の協力体制が整っていること。

イ 調査の申請

品種育成者は、調査を受けようとする品種について、(1)の(ア)から(オ)までの事項に関する資料を添えて県に次により申請を行うものとする。

① 提出期限 春夏作 原則として 2月末日
 秋冬作 " 9月末日

② 提出先 熊本県農業研究センター

(2) 調査の期間

ア 調査の期間は、原則として3カ年とする。ただし、3年未満の調査であっても他の都道府県その他の機関の調査から調査対象品種の特性が明らかなる場合はこの期間を短縮することができる。

イ 基本調査は、調査対象品種の特性を明らかにするため、第1年目に予備調査、第2年目以降に本調査を行う。

ただし、当該品種の特性が明らかなる場合には、予備調査を省略することができる。

ウ 現地調査は、基本調査の予備調査が終了後に行う。

(3) 調査に用いる品種調査には、次の品種を含めることとする。

ア 標準品種 調査対象品種の比較対象の基準となる品種

イ 比較品種 特定の形質を比較するための品種

(4) 調査の栽培試験で用いる耕種基準は、熊本県農業研究センターが別に定める。

2 奨励品種等の決定基準

(1) 奨励品種等の採用基準

ア 奨励品種等の採用に当たっては、おおむね次の基準のいずれかを満たす品種のうち、普及上特に支障となる欠点がないものの中から選定するものとする。

(ア) 対象品種と比較して、収量、病虫害抵抗性、品質、食味その他栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性を総合的に勘案して明らかに

優れているものと認められること。

- (イ) 対象品種と比較して、収量、病虫害抵抗性、品質、食味その他栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性のいずれかについて明らかに優れていると認められること。

イ 県が奨励する品種として奨励品種と認定品種を設定する。

認定品種とは奨励品種決定調査の結果、下記のいずれかに該当するものとする。

- (ア) 当該品種の地域または用途が制限されているもの。
- (イ) 奨励品種にするには課題が残されており、奨励品種にするまでに段階をおくことが適当と考えられるもの。
- (ウ) 作付面積が減少しているが、廃止するまでに猶予期間をおくことが適当と考えられるもの。

ウ 奨励品種等の廃止基準

奨励品種の採用後、次のいずれかに該当すると認められるときは、当該品種等を廃止することができる。

- (ア) 奨励品種等の特性が変化し、(1)のアの基準を満たさなくなった場合。
- (イ) 普及対象地域で栽培上重要とされる特性または生産物上重要とされる特性に関し、重大な欠陥が明らかになった場合。
- (ウ) 当該品種の作付面積が著しく減少し、今後とも増加の見通しが無くなった場合。なお、その基準は別表のとおりとする。
- (エ) 新たな奨励品種によって代替が可能である場合。
- (オ) 当該品種の種子の供給が困難となった場合。

3 その他

ここに定めるものの他、必要なものについては奨励品種審査会で審議のうえ別に定めるものとする。

(別表) 奨励品種廃止の基準

作物の種類	全作付面積に対する当該品種の作付割合
稲	1 % (水陸稲ごと)
麦類	1 % (麦種ごと)
大豆	1 %

注1 地域を限定した品種：作付面積に対する作付割合が上表に満たない場合は、当該品種の当初普及見込み面積の概ね10%を目安とする。

注2 用途を限定した品種：需要に応じた生産の必要がある品種の場合は、原則として面積の制約は受けない。

注3 新たに採用した品種：作付割合の制限を原則として4年間は適応しない。